



運営の DX 化を進め、地域と協力して 新しい商店街のあり方を見いだす

末広通り商店街振興組合（江東区）



江東区東砂 4-16-7

<http://www.suehiredori.org>

活用した事業

- ・商店街パワーアップ作戦



2024 年のハロウィンフェスティバル集合写真。さまざまな催しや仮装した人たちで、商店街が非日常の楽しい空間に変わる。

運営の事務を DX 化し だれもが参加しやすい運営方法に

東京メトロ東西線の南砂町駅から 20 分ほど歩くと、なつかしい雰囲気を漂わせる「末広通り商店街」の看板が現れる。そこから延びる約 1km の通りには店舗や医院などが並び、地域の住人から愛され続ける。かつては多くの店が軒を連ねていたが、次第に宅地化が進行。そこで商店街の活性化を図ろうと、2022 年から「商店街パワーアップ作戦」の利用を始めた。希望する店舗にデジタルサイネージを導入したり、情報発信力強化のため、Web の整備にも着手した。

ところが前会長が廃業し会長職を退くことに。新会長として、商店街で接骨院を経営する村上さんに大役が任された。ノウハウの引き継ぎが十分にできないまま急きょ就任したため、専門家に支援を仰ぎ、商店街活動を刷新することにした。

メンバーで書類が共有できるようクラウドストレージにデータを保管。SNS 公式アカウントを作成して広報するなど、事務の DX 化を進めた。「紙のお知らせを配るよりもコストダウンでき、多忙で会議に参加できない人も情報共有ができるようになりました」と村上さん。だれもが参加しやすく、持続可能な組織をめざして変革中だ。

「賛助会員制度」を新設し 区域外店舗や住宅も“ウェルカム”に

商店街では、毎年 10 月に目玉行事である「大道芸 & ハロウィンフェスティバル」が開催される。小学校のマーチングバンドやプロレスショー、模擬店の出店などがあり、仮装した子どもたちがスタンプラリーで街を走り回る。毎年大勢の人でにぎわい、盛り上がる名物イベントだ。集客効果で店舗の売り上げはアップ。また、商店街以外の飛び地にある店も出店し、売り上げが好調であったことから、「末広通り商店街



商店街会長の村上岳志さん。「むらたけ接骨院」院長として多忙な中でも、商店街を盛り上げていこうと奮闘中。
ホームページ担当の加賀谷早苗さんは、舞踏家で漆芸アーティスト。実家は商店街のお米屋さん。

に加入したい」との声がかねてから上がっていた。

そこで、専門家の助言を得て「賛助会員制度」を新設し、区域外の店舗や住宅にも加入の門戸を広げた。おかげで、新たに 5 店舗の加入が実現。地元の住人からも「協力したい」という声が上がっているという。ホームページ担当の加賀谷さんは、「イベントを通じて商店街を応援してくれる人が増え、年々厚みを増している感があります」と微笑む。

地域との結びつきを強め 新たな商店街活動ヘシフト

近隣の店や地域の住人を積極的に受け入れる柔軟な姿勢が功を奏し、「小学校から、昔の商店街の話をしてほしいと依頼されたり、地元のスポーツセンターと一緒にイベントをやろうと声をかけてくれる」（村上さん）など、ネットワークが広がりつつある。「商店街は、地域と賛助会員とともに、新しい視点で活動していく時代になっているのかなと思う」と加賀谷さん。

担い手不足や高齢化は、どの商店街にとっても深刻な問題だが、省力化を進め、地域と連携することで、新たな商店街のあり方を見出した好例だ。



各店舗に設置されたデジタルサイネージは、イベント時には告知機能も。夜には商店街を明るく照らし、華やきをもたらす。

恒例のハロウィンフェスティバルでは、マーチングバンドやスタンプラリーなどで、多くの子どもたちが参加。